

講座及び大学における ワークショップ結果

目次

- 1 講座「片付けパパ®から学ぶタイムマネジメントのヒント」・・・P1～
- 2 講座「女の子のためのココロとカラダのはなし」・・・・・・・・・・P3～
- 3 講座「知っておきたい災害時のトイレのはなし」・・・・・・・・・・P5～
- 4 創価大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7～

講座「片付けパパ®から学ぶタイムマネジメントのヒント」 におけるワークショップ結果

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和3年(2021年)1月23日(土)
- (2) 講 師 大村 信夫(整理収納アドバイザー1級)
- (3) コーディネーター 宮本 大輝(山梨学院大学非常勤講師)
- (4) 参加者数 11名 (3グループ)
- (5) 性別・年齢 女性1名 男性10名(30代2名 40代3名 50代6名)

2 内容

グループ毎に自己紹介後、講座「片付けパパ®から学ぶタイムマネジメントのヒント」を開催し、その後、ワークショップにおいて課題と対応策を考え、参加者全員で共有した。

テーマ

「男女が共にいきいきと暮らせるまちづくりをめざして ~男女共同参画の視点から課題を出し合おう~」

- 1 男性の家庭参画における課題について、家庭、地域、職場などでどう感じているか
- 2 課題に対して、解決のために有効だと思う対応策は何か

【各グループで出された意見の一部】

	課 題	対 応 策
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きでも男性は家事育児をしない、妻に任せている ・やったことがないのでやり方が分からない ・家事が苦手なので手を伸ばしづらい ・台所のことは男性が口を出しづらい ・家事育児の役割分担のバランスが難しい ・「手伝う」という他人感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けなどで暮らしのストレスをなくすことから始めてみる ・自分のことは自分でできるようにする ・できる家事からやってみる ・役割について家族で話し合う/意見を共有する時間や場所を作る ・家事分担表を作って見える化 ・男性も女性の生理を知る
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに伴う地域活動(PTA等)も女性が中心 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で助け合うような仕組みづくり ・学校や地域への参加について、ハードルが低いきっかけづくり ・学校行事に参加してみる
職 場	<ul style="list-style-type: none"> ・家事・育児で疲れて、仕事の成果に影響が出る ・育児休暇は取りたいが収入源が減る ・育児休暇を取ると未婚者への負担が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートワークの積極的活用 ・育児中の社員への仕事上の負担を減らす ・育児中の社員の仕事を請け負った未婚者へのケア ・職場でのコミュニケーションをとって休暇を取る

	課 題	対 応 策
職 場	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務で通勤時間が無くなった分を家庭参画に使えていない ・通勤・労働時間が長く、家事・育児まで手が回らない ・休暇が取りづらい ・パートや非正規は女性中心という雰囲気 ・子育て中の男性へ配慮が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・残業をしないようにタイムマネジメントする ・育児手当の増額 ・副業の認可を緩和 ・働き方に余裕ある職場づくり ・長時間労働の規制強化

【その他】

- ・男性向けの土日参加・託児付きの講座を増やしてほしい
- ・男性でもできる簡単な料理教室をしてほしい
- ・育休に対する行政の助成金などがあればよい
- ・育休に手厚い制度を実行している企業に対し、行政が支援する仕組みづくりをしてほしい

講座「女の子のためのココロとカラダのはなし」 におけるワークショップ結果

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和3年(2021年)1月30日(土)
- (2) 講 師 染谷 明日香(NPO法人ピルコン 代表)
- (3) コーディネーター 宮本 大輝(山梨学院大学非常勤講師) サポート: 宮本 菜月
- (4) 参加者数 24名/12組
(ワークショップ時 母親:12名/3グループ、子ども:12名/4グループ)

2 内容

講座「女の子のためのココロとカラダのはなし」の講義後に、参加者を子どもと母親に分けてワークショップを行った。

(1) 母親の参加者におけるワークショップ

コーディネーター: 宮本 大輝氏

母親の参加者については、グループを作り、各グループ内で自己紹介後、以下のテーマにおける課題と対応策を考え、参加者全員で共有した。

テーマ

「男女が共にいきいきと暮らせるまちづくりをめざして ~男女共同参画の視点から課題を出し合おう~」

- 1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツにおける課題について、家庭、地域、学校、職場などでどう感じているか
- 2 課題に対して、解決のために有効だと思う対応策は何か

【各グループで出された意見の一部】

	課 題	対 応 策
家事 育 児	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の役割分担は女性が多い ・在宅勤務で家事の負担が増えたのに、夫婦で役割分担できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の外注がしやすい環境づくり ・男性向けの料理教室の実施
地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが困った時に親以外で相談できる場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外でも子どもが様々な相談ができる場所を作る
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業で性教育についてどの程度まで教えてもらうのかわからない ・学校での性教育が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校できちんと性教育をする ・赤ちゃんふれあい事業を小学校に拡大する ・オンライン授業の活用 ・学校が女の子の生理について理解して対応する

	課 題	対 応 策
性 の 健 康	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体調の変化による心身の不調を家族に理解してもらうのが難しい、どこに相談してよいかわからない ・どのように性教育やSNS教育をするべきかわからない ・子どもや母親自身の性に関する問題に対し、母親だけが背負っている ・男女ともに、心や体について知る機会が足りない ・妊娠に関わる正しい情報が足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子、父親に対する性教育の場を作る(女の子の性についても知る機会を作る) ・親にもITリテラシー教育や性教育をする

【その他】

- ・「リプロダクティブ・ヘルス」という言葉を知らなかったため、啓蒙を積極的に行ってほしい
- ・男の子/男性/父親が、家族でも参加しやすい性に関する講座を開催する

(2) 子どもの参加者におけるワークショップ

コーディネーターサポート：宮本 菜月氏

子どもの参加者については、グループを作り、各グループ内で自己紹介後、前半の講義の感想を話し合ってもらい、子どもの参加者全体で共有した後に講義内容を振り返るゲームをした。

【講義内容の感想の一部】

- ・心と体のことを知ることができて勉強になった
- ・女性の体には大切な部分がたくさんあることが分かった

講座「知っておきたい災害時のトイレのはなし」 におけるワークショップ結果

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和3年(2021年)3月24日(水)
- (2) 講 師 加藤 篤(特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事)
- (3) コーディネーター 宮本 大輝(山梨学院大学非常勤講師) サポート:宮本 菜月
- (4) 参加者数 22名 (6グループ)
- (5) 性別・年齢 女性15名 男性7名 (30代1名 40代2名 50代5名 60代14名)

2 内容

グループ毎に自己紹介後、講座「知っておきたい災害時のトイレのはなし」を開催し、その後、ワークショップにおいて課題と対応策を考え、参加者全員で共有した。

テーマ

「男女が共にいきいきと暮らせるまちづくりをめざして ~男女共同参画の視点から課題を出し合おう~」

- 1 防災における課題について、家庭、地域、職場などでどう感じているか
- 2 課題に対して、解決のために有効だと思う対応策は何か

【各グループで出された意見の一部】

	課 題	対 応 策
トイレ	・避難所で父親が女兒のトイレの付添いができないことが多い	・女性のトイレ問題について、しっかりコミュニケーションしておくこと ・施設における「多目的トイレ」の拡充
高齢者	・高齢者が増えていて平時・非常時両方とも情報が伝わりにくくて心配	・平常時からの防災教育 ・高齢者にもすぐ分かる避難所標示
地 域	・災害時に近所の方との協力の難しさ(隣近所の家族関係が不明) ・どんな時に避難所に行くのか分からない ・発災時に何をしてもらおうのか分からない ・災害時、(女性が)仕切ってしまった後でトラブルになるのが怖い ・町会を中心とした自主防災組織はあるものの、男性中心で動いている ・避難所での役割分担 ・昼間の発災時、外で働いている人が多い中で、在宅の高齢者や女性しかいない場合に何ができるのか、どのようにすればよいのか分からない、負担が大きい	・日頃から近所の人とのコミュニケーションをとる ・相手を尊重する ・普段のご近所付き合いの中から災害時どうしたらいいか、考えを聞いておく ・自助、共助の視点を持つこと、そのために日頃からの心構えや体験を繰り返し行うこと ・性別関係なく、積極的にやれる人にやってもらう ・高齢者や女性を集めて、ヒアリングする ・避難所での仕事や作業をリストアップして、女性に見てもらえる機会を作る

【その他】

- ・ 防災情報を広報などで積極的に取り上げてほしい
- ・ 地域ごとに対し、防災についての情報伝達や避難所運営の話し合いなど、市から働きかけてほしい
- ・ 行政サイドから助けが必要な人の情報を得る仕組みを作りたい

創価大学におけるワークショップ結果

1 開催日時等

日時：令和3年（2021年）1月13日（水）

講師：門脇 睦美（一般財団法人女性労働協会 理事）

小林 恭子（一般財団法人女性労働協会 第一事業部 部長）

男女共同参画課職員

対象：創価大学文学部杉山由紀男ゼミ 3年生 24名

性別：女性14名、男性6名、不明4名

2 内容

本市職員による本市の現状及び課題の説明と、講師による講義及びワークショップのルール説明後、24名を5グループに分けた。

設問1について、グループ毎に事前課題を基に話し合い、結果を全体で共有した。その後、設問2について、グループ毎に事前課題を基に話し合い、結果を全体で共有した。

テーマ

「男女が共にいきいきと暮らせるまちづくりをめざして～男女共同参画の視点から課題を出し合おう～」

- 1 男女共同参画が進んできたと思うことと課題だと思うこと
- 2 設問1で出た課題の解決策

設問1 男女共同参画が進んできたと思うことと課題だと思うこと

家庭 (進んできたこと)	<ul style="list-style-type: none">・今は男性も家事・育児を行う風潮が出始めている・共働きが普通になってきた・メディアの影響により、育児参加する男性が増えていると思う・育児したい男性が増えてきたと思う・コロナの影響で在宅中に男性も家事をする機会が増えたことで、意識が高まっている
家庭 (課題)	<ul style="list-style-type: none">・ベースに性別による役割分担意識が残っており、女性は家事をやらなければいけない、男性はそれを手伝うという意識がある・男性は力仕事、女性は家事のほぼ全般を担っている・コロナの影響で夫の在宅時間が増え、(夫の)不慣れな部分が不満に変わっている・保育園等のお迎えは母親が多く、父親はあまり来ない・男性の産休育休が取得しづらい・男性(父親)が家事をしても、日常的にやっているというより、たまにやる手伝いのような感覚がある

学校 (進んできたこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性責任者」といった、役職における「女性」という冠詞がなくなり始めている
学校 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・名簿が男女別になっており、なぜか男性から始まっている ・学校の性教育は男女別にやっているため、理解の差から将来的に影響が出ていると思う ・役職に男性が多いのが例年続いており、その人が選ばれた理由が見えない ・理系は男性、文系は女性が多い ・女性専用のゾーンがある ・大学進学率について女性の方が低い ・制服やランドセルに男女別の規定がある ・女性の校長や体育教師が少ない
地域 (進んできたこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・男性も地域活動に参加し始めている ・男性トイレにもおむつ台ができています
地域 (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・男性は消防団で女性はごみ拾いのように、仕事によって男女別の意識がある ・地域活動に女性が多く、いまだ男性の参加は少ない傾向にある ・地域における役職には男性が多く、女性はサポートというイメージがある
アルバイト (進んできたこと)	
アルバイト (課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・男性は管理職・女性は補助的な役割の立場が多く、女性が管理職だと珍しいと感じる ・アルバイト先で、接客が苦手なのに「接客は女性がいい」と言われた経験がある ・受付業には女性が多い

設問 2

設問 1 で出た課題の解決策

<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭における男女の役割分担意識を変える方法の一つで、地域や企業のこれまでの仕組みを見直す ・ 性別で分担するのではなく、得意な分野で役割を分担する ・ 分担できるものは話し合って決めて、男性の家事参画率を上げる ・ 協力してやることを意識づける ・ 企業が福利厚生を手厚くする ・ 男性に対して、育児の学びが得られる機会を作る ・ 夫婦間で話し合う機会を設ける
<p>学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高から性教育をするのではなく、小学校のうちから男女で同じことを勉強する ・ 役職の選考等において、性別ではなくその人を見て決めたという選考理由を明確にする ・ 教員が子どもに無意識にジェンダー観を植え付けないように、教員にもジェンダー教育をする ・ 女性に大学進学を促す取組をする
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性だけでなく、男性も地域活動に参加しやすい雰囲気づくりをする ・ 保育園等で父親専用の会を作って交流の場を設けることで、男性の家庭参画に繋げる ・ 地域における男女格差について、現状を知ってもらう
<p>アルバイト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社の方針やトップの意識改革を図る ・ 会社が個人の特性を理解する取組を行う ・ 企業内保育の充実を図る ・ 労働環境を改善して男女関係なく働きやすい職場づくりをする
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディアの印象操作で、男女共同参画に対して悪い印象にしない ・ 男女の役割分担意識を変えるためにメディアの影響は大きいと思うので、男女間の問題や社会問題をメディアで取り上げることが必要

